

庄原市議会 市民と語る会
11月18日(水)夜7時から
会場は小奴可自治振興センター
お気軽にご参加ください。

西城市民病院巡回診療
10月28日
11月4日、11日、18日、25日
14:50 研修センター(小奴可)
15:40 自治振興センター(内堀)
保険証、薬手帳、診察券もお忘れなく。

足立美術館 庭園



10月	行事	時間	会場	メモ
22日(木)	シルバーリハビリ体操を楽しむ会	14:00	研修センター(小奴可)	第2火曜・第4木曜
25日(日)	サロン・リングの会	14:00	加谷集会所	移動販売車 14 時
11月	行事	時間	会場	メモ
3日(火)	定期移動販売車	11:00	自治振興センター(内堀)	第1火曜・第3火曜
10日(火)	シルバーリハビリ体操を楽しむ会	14:00	研修センター(小奴可)	第2火曜・第4木曜
11日(水)	サロン・シャクナゲ会	13:30	自治振興センター(内堀)	第2水曜
13日(金)	シルバーリハビリ体操	14:00	自治振興センター(内堀)	第2金曜・第4火曜
毎週水曜	3B体操	10:00	自治振興センター(内堀)	より健康に！より幸せに！
毎週水曜	未来塾・小学生	15:00	小奴可こども園、算数・月会費500円、授業中は私語ナシです	
毎週水曜	西城市民病院巡回診療	14:50 15:40	研修センター(小奴可) 自治振興センター(内堀)	保険証、お薬手帳、診察券も一緒に

ご厚志 謹んでご紹介します

小林 実様 香典返し 小奴可自治会へ
白石 尚様 香典返し 千鳥自治会へ



散歩でほろか開催中
6か月(はんざき)コース残り期間、あと二か月。ゴールは近い！



読者プレゼント 小奴可
宇恵ファーム
新米こしひかり5kg
10名に 当選番号
6・32・55・71・105・194・202・294・303・359。当たったら事務局にご連絡ください。
引き換えは 10月31日 まで。

小奴可の里だより

令和8年10月19日 373号 インスタ FB
小奴可の里自治振興区
庄原市東城町内堀1100-1
電話・ファクシミリ 5-0057



小奴可りんご

小奴可の里自治振興区から
11月29日 行事のご案内
午前10時 カラオケ交流会
会場 小奴可自治振興センター(内堀)
～歌って健康に・観覧もどうぞ 入場無料
お昼時間・軽食販売、ミニ喫茶コーナー

なんと11月29日・同日開催
林家ひろ木落語会
午後2時から同じ会場で入場無料 (敬称略)



足立美術館 庭園



足立美術館 庭園

10月2日・視察研修スナップ写真集です。
午前・足立美術館
午後・大山周辺
3月に続いて今回も好天に恵まれました。
ご参加ありがとうございました。



「ひみつのたからもの」

1年 せおゆかな

ひょうしのえがかわいかったから、「ひみつのたからもの」のほんをよみました。ねこが、しましねこだから、ものをみせあって、とびきりなかよしなるおはなしです。じぶんが、ひみつのたからものは、へんなものといわれても、わたしのなかではへんなものではないので、たいせつにしたいです。きつとわかってくれるひといるとおもいました。

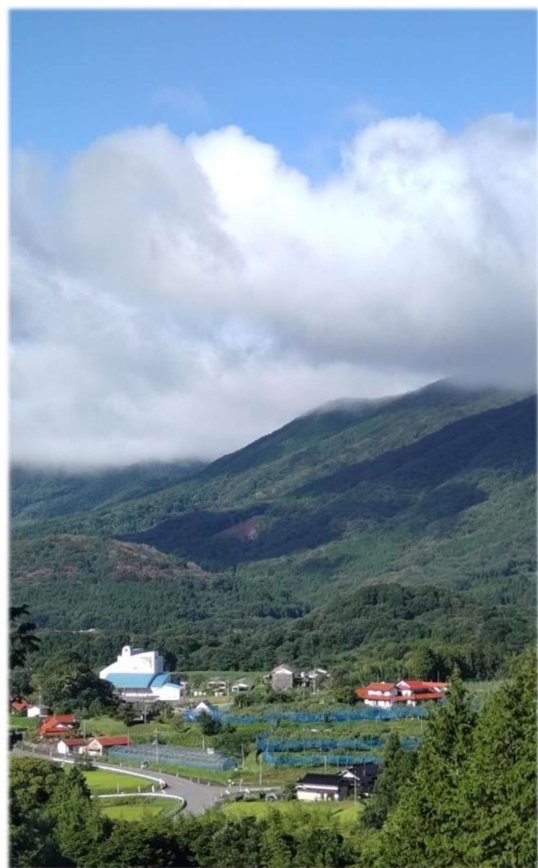
「ルルとララのハロウィン」

3年 森下 千か

わたしが読んだ本は、ルルとララのハロウィンです。わたしがこの本を選んだ理由は、絵がかわいかったからです。

おばけのウーとクローがハロウィンのようにたいじょうを動物のみんなにくばっても、しょうたいじょうをうけとってくれませんでした。

みんなは、おばけの友だちになりたくないんだと思います。その理由は、ひめいをあげられたり、おいはらわれたり、話を聞いてくれない動物もいて、ウーとクローはがっかりしていました。ルルとララはウーとクローのかわりにしょうたいじょうを、くつきーといっし



よくくばりました。くばりにいくと、どうぶつたちは、ルルとララのお店にいた動物があつまってきた、おばけのルルとララはにっこりとしました。こうして、おばけのルルとララは動物と友だちになりました。ルルとララがクツキーをつくって、しょうたいじょうをくばったから、おばけのルルとララが動物となかよしになれたと思います。

「ルッキオとフリフリ おおきなスイカ」 4年 木下 歩

猫のルッキオとフリフリは、ゆめがあり、それは、だんろの前でゆっくりし、銀のお皿でまっかな、おさしみをいただくことです。ぼくはいいゆめを持つていいなあと思いました。でも二匹は、

ぜいたくはできないのでかわいそうでした。ある日、フリフリがルッキオに、こんな物があつたと言うと、そこには、大きなスイカがあり、ルッキオとぼくは、おどろき。ぼくは、こんなに大きなスイカがあつたらいいなあ、食べてみたいなあと思いました。二匹は、手押し車に、大きなスイカを積み、浜辺へ持って行きました。あんなに大きなスイカを浜辺まで運べるのはすごいなあと思いました。浜辺にたどり着くと、二匹はフリフリをならべてお客さんが来るのを待ち、たいくつそうでした。最初の人は男の子でした。「どうですか」と、二匹は言いましたが、男の子は、買い食いはいじめと言われていると、帰ってしまい、二匹ともつらうでした。二人ともがんばって宣伝したけど大きなスイカをほしいという人は現れず、二人はとぼとぼと帰っていく途中で、ぐらつと手押し車がかたむき、今日食べるはずだったスイカがころころ転がり、海へ落ちてかわいそうでした。二人とも海へ入り、スイカを追いかけて、がんばってるなと思いました。そしてスイカをつかまえて見たら、たこや、さかなが食らいについていて、おおごちそうだなと思いました。



「エルマーのぼうけん」を読んで

4年 柳生 連太郎

夏休みに図書室で「エルマーのぼうけん」という本を借りて読みました。エルマーという少年が、年取った猫に話を聞いて、ぼうけんに出かけるお話です。

心に残ったことは、空から落ちてきたり、龍の子どものことです。この龍は、動物島の動物たちにつかまえられていて、無理やり働かされて、ひどいあつかいをされていて、ものすごくかわいそうだと思ったことです。

もうひとつは、十七匹の、ワニをうまく利用するためにキャンディーと輪ゴムを使う作戦を考えたところでした。その作戦は、まず、岸にぼうつきキャンディーをさして、一番目のワニがなめている間に、一番目のワニのしっぽに、輪ゴムで別のキャンディーをくくりつけて、次のワニがそのキャンディーをなめると、このワニをくり返していくと、十七匹のワニが整列をして、川の向こう岸までとどいて、エルマーが、それをわたるといいます。かしこ

「アフターブルー」

中学三年 河上 実咲希

私は、朝宮タさんの「アフターブルー」を読み、「死」と向き合う人々の強い覚悟に大きな印象を持ちました。

本作は、事件や事故で損傷の激しい遺体を元の姿へと復元する、納棺師たちの物語です。無残な現実を淡々と受け止め、遺族が最後のお別れを言えるように全力を尽くす彼らの姿は、単なる作業ではなく、遺された人々の止まった時間を動かすための作業だと感じました。遺族にとって大きな一歩を踏み出すのをサポートする彼らに感謝しました。

作中で語られる「人が死んだ理由なんて絶対見つからない」という言葉が特に印象に残りました。突然の理不尽な死に直面した時、遺族は「なぜ」と自分を責め、苦しみ続けます。しかし、完璧に復元された



故人の面影に触れることで、遺族は、理由を探すのではなく、その最後を受け入れる準備ができます。陰ながら遺族をすぐそばで支えているのは、彼らなんだと改めて感じさせられた場面です。実は、納棺師自身もまた、それぞれに大切な人を失った「喪失」を抱えていて生きています。彼らが他者の死に寄り添うことで、自らの傷とも向き合い、静かに前を向いていく姿に救われるような感じがしました。死は誰にでも等しく、突然現れる可能性があり、だからこそ、今ある当たり前の日常や大切な人と過ごす時間を決して疎かにしてはならない、目を背けたくなる現実の先に、生きることの尊さを教えてくれる、内容はあまりにもリアルで重い話でしたが、それ以上に暖かく、希望に満ちた一冊でした。